

第3回 ウガンダにおける「土のう」による農村インフラ整備

期間) 2008.5.26 - 2008.5.30

メンバー) 福林 良典

- > JICAウガンダ事務所からの要請を受け、カリロ県でのワークショップで講演しました。
- > 前回研修を実施したドホ灌漑地区の道路状況を確認しました。
- > 研修後、自発的に道直しを実施した隊員のサイトを訪れ、技術指導を行いました。



協力隊員たちの声

住民と一緒にやりました。とても喜ばれています！今後も継続して進めていきます！

ウガンダでの行程

ナイロビ ●

カンパラ ●

カロ県 ○
(ワークショップ
実施箇所)

前回 ○
研修実施箇所
ドホ灌漑地区

ムピジ県 ○
(協力隊が
独自に
道直し実施
した地区)



カリロ県でのワークショップ

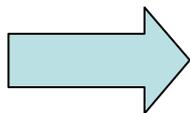


ワークショップの様子



デモンストレーションの様子

- JICAウガンダ事務所が「土のう」による道直し工法についてのワークショップを実施
- JICAケニア事務所へ要請があり、福林が講師としてナイロビより出張
- 約50名の地方行政官、道路行政担当者が参加
- 工法説明後、近くのサイトでデモンストレーションを実施(隊員による準備)



Community Access Roadの維持管理に地方行政官は熱心
「土のう」工法実施のため、次年度袋代などの予算を計上する予定

2007年9月に補修箇所その後の様子

研修実施箇所で、現地配属隊員が住民と「土のう」による道直しを継続して実施

研修中の
補修箇所



2007年9月施工前の様子



2008年5月、施工後約8ヶ月後の様子

研修後
隊員が実施



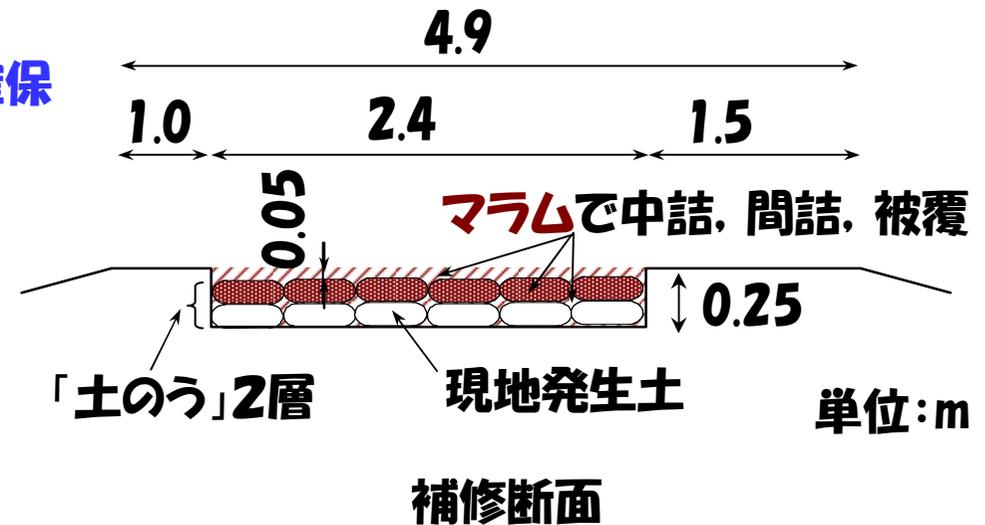
2007年9月施工前の様子



2008年5月、施工後約8ヶ月後の様子

隊員独自の工夫や感想 - 1

- ① 路面に水を溜めないことが大事です。
- ② 路面にはマラムなど、粒状の小石を含む材料が適すことがわかりました。
- ③ 経費削減のために2層のうち、1層目には現地の土を、2層目には粒状材料を中詰めしました。



隊員独自の工夫や感想-2

- ① 90 kg米用袋を2つに分割し、裁縫して利用しました。
- ② 道脇の排水溝から底さらいした砂を乾燥させて中詰材として利用しました。
- ③ 自分の任地ではこんなコンパクターを作りました。
- ④ 仲間の隊員任地ではマラムはいくらでしたが、自分のところではいくらです。
(コストの感覚、より安く良いものへという意識)
- ⑤ 住民と話し合いながら、工夫を重ねています。



排水溝の底から砂上げ
乾燥させて中詰材に利用

村人らと作成した
締固め具



隊員による施工事例ー1



施工前の様子(バイク, 自転車が走行)



施工状況



施工完了後の様子



施工後の約6ヶ月後の様子

隊員による施工事例-2



施工状況



施工後約6ヶ月後の様子, 轍が形成



材木を過積載した4t車が通行

厳しい条件

- 施工中に雨, 「土のう」が充分締固まらない
- 日陰で日照時間が短く, 乾燥しにくい
- 降雨時に溜水
- 過積載の車の通行(一日3往復程度)

今後の対策

乾季に施工
排水の確認
入念な締固め
日当たりを良くする

JICAウガンダ事務所での「土のう」工法の今後の展開

JICAウガンダ事務所として、
隊員による「土のう」による道直し活動を後押ししたい。

- 建設公共事業省配属の専門家による地方行政へのアプローチ
(工法紹介のためのワークショップ → 予算獲得, 定着化を目指す)
- **第2回協力隊員への集合研修**
(複数のパターンでの補修方法について, 研修の要請8月頃, **福林がケニアより出張予定**)
- 隊員の中で「土のう」による道直しグループを形成
(経験, ノウハウの隊員間の引継ぎ)
- 土のう袋はネリカ米担当専門家活動経費より購入
- 中詰材, 運搬費は隊員活動支援経費より捻出
- 昼食代については**NPO法人道普請人より支援(今回, 1,000US\$を支援)**
- 女性隊員の関与(休憩時の炊出時の女性住民をまとめる)
- 技術面, うまくいかなかった時の道路専門家によるフォロー
- 同県内での年複数回の実施によりインパクト
- 中詰材に煉瓦くずの利用性など, AICAD(JICA支援による知識・技術と実用
の間を効果的に結ぶことを目指した国際機関)を利用した研究の可能性